

第2回 区民版子ども・子育て会議

【多様化する子育て世代の働き方を考える～様々な立場の人が一緒に考えてみませんか?～】

日時：2017年08月23日（水） 18:30-21:00

会場：成城ホール4F 集会室E

申込：51人 / 参加：60人

進行) はじめの挨拶

まずは保坂区長からご挨拶を

区長) 今日は傍聴させていただいて、途中で一言かせていただきます

進行) 多様な働き方ということで座談会を実施した内容を報告させていただきます。

資料は後から配りますので、まずは発表をお聞きください。

中山) 利用者支援事業で子育ての相談をうけています。4回ほど当事者と座談会を行いました。これが全てではありませんが、大まかにまとめたものを発表させていただきます。

資料「多様な働き方座談会 参加者の声（抜粋） 働き方と子育てについて

座談会実施 7月26日（金）、27日（金）、31日（金）、29日（土）

実施数4回 各回4～5名

属性：（育休中、休職中で働き方を考えている人、テレワーク経験者、勤務中）

「働き方と子育てについて【現実】」

- 1) 皆さんの声はとても納得いきました。
- 2) 何人もの方に言われました。今の世田谷の状況では難しい。保育園に入りにくい。本来の働き方というより、どうしたら保育園にはいれるかという仕事の仕方、もしくは働くのをやめてしまうという選択をとる。
- 3) 現実的ではない
- 4) 夫の転職による影響
- 5) 在宅ワークの方からもお聞きしましたが、フリーの方も会社員の方もいますが、2歳以上になると動きまわる子どもとは難しい。幼稚園にいくと時間限定
- 6) 兄弟ポイント（保育園にいる上の子がいる）を計算して出産をする人もいる

現実には制度に合わせて逆算して働く人が多い印象でした。

「働き方と子育てについて【理想】」

- 1) 週1, 2だと保育園にあずけられない
- 2) 仕事の内容

- 3) 税制上の問題で調整しながら働いている人もいる。夫にどちらかの選択を求められている
- 4) 低空飛行という働き方の選択があればいい

「働き方と子育てについて【子どもとの関わり】」

- 1) ずっと一緒はしんどい
- 2) ブランクへの不安感
- 3) 自分の子どもは自分でみたい（保育園の質にもよる・子どもを預けてまでの価値があるのか）
- 4) 仕事ではなく、母親の自分自身の時間も必要

「働き方とこそだてについて【自己実現】」

- 1) 自己実現したい 会社辞めた人もそう思っている
- 2) 稼いでないと負い目を感じる。
- 3) 女性自身が家事・育児の価値をさげている。仕事としてみられない。自分自身でその価値を見つけていくと同時に男性自身（夫）の理解も重要

「おまけ」

- 1) 会社でも残業をしないで帰る（謝る）→お迎えもぎりぎり（謝る）家でも夫や子どもに謝って、いろんな人に謝ってばかり。そんな自分があほみたい。⇒男性も育休をとって、育児のことを理解して
- 2) 週1でも仕事を続けて女性のキャリアをつんでいかないと ⇒各自にバッファを持たせるか忙しい時に入れる人を作るべき

進行) 座談会を通じて女性のいろんな本音がでたなと思いました。

ここからプロジェクトに流した資料を配布するので、今発表したことをグループのなかで自由に話していただいて、あとで発表していただきたいと思います。

青いポストイットを配布するので、そこに書いてください。ひとつのポストイットにひとつのことから。

今の発表を聞いて、いろんな思いを持ったと思うのでそれを共有していただけたらと思います。

簡単に所属とお名前だけ言ってすすめてください。

18:50-19:25 グループタイム 6グループ (7人x4、8人x2)

進行) そろそろ発表してもらいたいのですが、各グループでこれを発表しようというのを決めていただいてよろしいでしょうか。1

1分程度でお願いします。

- 1) このグループはキーワード出ししたところでまとまらない
制度はできてきているが、文化、風土、価値観が何も変わってないんだなと
女性でも気づいていないし、違うチョイスをしたいと思う男性でも職場の関係でチョイスできない。制度はできても空気が熟成できていないのでは。
男性にも女性にもこの後の人生をどう生きていきたいか構築できるタイミングが必要と気が付いた

- 2) 世田谷区は保育園、幼稚園の選択がわりとできる。交通の便がいいので、働こうと思っても支えられるし、働かなくてもいい地域なのに、選択を求められる。すごく考えている地域だから、どちらかをゆるやかに考えられるといいし、保育園の入り方も考えてもらいたい。
- 3) いろいろ議論がでたなかで盛り上がったのは、家事・育児を家庭内で完結させるのが難しいのではないか。皆で時間かけて育てられる環境から、女性も働くのが当たり前、子育てを手伝う感覚の男性、構造的な難しさが女性だけにいつてるのではないかという議論。社会全体、地域全体で子育てをしていくのが重要ではないかというのが盛り上がりました。
- 4) お出かけ広場の人、産業公社、男女共同、区役所、のなかで男性は私一人ではほぼ話せない。女性の悩みはずっと変わってない。男性が変わらないから。男性はいるだけでも大事だと思われることがある。社会が変われないと。
- 5) 平等といいながら男女平等になってない。働きたい男性、子育てしたい男性、男、女でない思い、希望の働き方の自由度の低さ、0か100か 在宅勤務の労働環境が悪くなる。文化の調整が必要という話になりました。家族以外のサポーター（サポーターしたい人）の発掘。それをするためのバリアは何か？に話が終息して終わりました
- 6) いろんな話の中では、制度にあわせた生き方を選ばざるを得ない。0か100
130万の壁。就職をしようとするときにハローワークでは「預けることが決まっているか？」「働くところが決まっているか？」矛盾のある質問。働かないと預けられないし、預けられないと働けない、7:30-19:30 でも謝って帰らないといけない。

進行) 皆さんからいろいろ素晴らしい話ができました。では区長から一言お願いします。

保坂区長) グループの話を聞かせていただきました。多様な働き方という事では、多様でない現実。週3日だけ、という制度がない。区長になってから60数か所保育園を開設。3歳以上は解消したが、0, 1, 2はまだ。どこまで解消できるのか？働き方が変わっていくべきではないか。昨年、厚生労働大臣の前で意見を言える機会があった。家の近く、ターミナル駅で仕事ができるスペースと保育できるスペースがあればだいぶ変わるのではないかと、企業もテレワークに子育て中の社員に対して、当然という空気に変わっていかないとだめ。

概算要求で予算がついたが、最後にハローワークにもっていかれて地方の対策になってしまった。今も交渉していて、今年から制度にもっていけるようにしています。

コワーキングスペースで、隣で保育ではなく、託児的な概念で預ける。それで相対的に短い時間で子供という時間が長く、仕事の割合もある、会議にもでれるようにならないか。

女性だけが使うというのはおかしい。区役所内でも男性にも。フランスの少子化社会が折り菓子店をむかえたか、ポイントは男性の意識の問題、男性のスタンスの問題。フランスには父に産後2週間ほぼ7割の男性が取得。それを区役所でまずやろうと3週間取得した職員がいた。制度としてできるが空気がない。「手伝う」という意識改革を。男性の意識改革がカギ。区内の人口90万人、待機児童も多い。

世田谷区の産後ケアセンターは旅館業法として開設。少子化対策の切り札として政府から評価されている。この度 厚生労働省はガイドラインを作っているが、世田谷区のは不適合とされまた再交渉をしています。自治体が設置する産後ケアセンターのガイドラインができそうになってきた。あきらめないで

このようなワークショップなどで具体的な提案をしていただきたい。今日は元子ども部長の岡田部長も来ている。

進行) 2部にうつるまえに45分まで休憩にします。休憩後にはテーブルを移動してください。

19:45

進行) そろそろ後半にはいります。お席におつきください。前に座った場所と違うところにお座りください。それでは2部ではコワーキングスペースについて話したいと思います。子ども育成推進課の真鍋さんをお願いします。

真鍋) 第一部はアイスブレイクとしていろいろ話してきましたが、世田谷区では様々な取り組みをしているところです。区長がコワーキングスペースというキーワードを言っていたかと思いますが、働く人は保育所に預けて、子どもとの時間が短い。区としては待機児童の対策は今後も整備をすすめていきますが、そうではなく、本当は子どもとの時間を大切にしたい。企業にしながら少なく働きながら、子どもとの時間を大事にするなど、制度としてコワーキングを進めている。

見守り機能付きコワーキングスペース。お手元に写真を配布しているのでイメージしていただければと思います。働き方改革：テレワーク 都心に通勤する地方の人が、テレワークで通勤時間短縮されるのを後押しするためにサテライトオフィス導入する。これは大企業向け。区内はほとんどが中小。導入できない。区内企業が参画できない。何か考えられないかというところで、子ども・若者部子ども育成推進課計画担当と工業・雇用促進課と生活文化部 人権・男女共同参画課の3課で、子どもの見守り付きワークスペースを検討できないかとすすめています。本日後ろに、見守り保育がありますが、まさにそれです。在宅で仕事をするときに、家に子どもがいると仕事にも集中できないという声がきこえてくるなかで、一定程度でワーキングスペースと見守りスペースがある。子どもを保育園に預ければなしではない。みんなが使いたいという声がでてくると企業が導入してまわる仕組みになっていく。風土が先か制度が先か。当事者の意見を座談会でも聞いてみました。いろいろ言われたなかで、この仕組みではうまくいかない、これでは使えない、というご意見をいただきお知恵をいただきたい、というのが本日の主旨でもあります。どうかよろしく願いいたします。

進行) では座談会を仕切ってもらった入江さんから報告してもらいます。

入江) 3月まで社員でしたが、NPO職員として働き方を変えた一人です。

テーマに区切ってまとめてみました。

【会社にとって】

- 1) ママスクエア@六本木は、ブースを企業が買いとるコワーキングスペース。企業の理解が得られず最初は契約企業を集めるのに苦戦している。
- 2) 無理やりテレワーク用の仕事をつくっている。
- 3) 家から近いことが大事。
- 4) 守秘義務、在勤管理でうまくいかない。

- 5) 経営者の考え方ひとつで決まる。
- 6) 生産性が落ちるのでは？という懸念は実際には生産性は上がる。(移動時間が短くなり、集中度も上がり効率が上がった事例あり)

【当事者にとってのプラス面】

- 1) フリーランスも増えているので使えるのでは
- 2) 近所なら使える
- 3) 子どもが何かあったときに当事者にプラス
- 4) 幼稚園のお迎えの後には使える
- 5) 福利厚生で安く使えるなら良い

【当事者にとってのマイナス面】

- 1) 職種が限られないか？
- 2) 上司による 誰でも取り入れられる環境ではない
- 3) 子どもを気にしながら仕事したい人はいない ガラス越しに子どもが見えるのがいいと思えない。
- 4) ⇒ ガラスで見えない方が集中できる
- 5) 子ども同伴の人と一緒に独身者は嫌かも。立場の違いもある(不妊の方には快く思われない)

【こうであれば使いやすい】

- 1) マフィス@馬事公苑のようにおしゃれでなくてもいいから、子どもも居心地よく過ごせるところならよい
- 2) 近所にあちこちあってもいい
- 3) ガラスで見えない方が集中できる
- 4) ファミサポセンター併用、子育てステーションやひろば併設だと気づきやすい
- 5) 3歳から認可保育園入所が認められればよい、コワーキングスペースが実績になればいい

一番あがったのは

外出ができない(保育所でないのでそばにすることが前提)と使いにくい→営業はできない

【利用できる職種】

- 1) カメラマン、ライターのPC操作など
- 2) 対人でない仕事が前提？
- 3) コールセンターなど電話対応の業務なら
- 4) 仕事だけでない利用(勉強、自己研鑽)の仕方ができるといい
- 5) プログラミングのSEなど

【利用できない職種】

- 1) お客様に向く営業
- 2) 医療系の仕事(現場に行く必要がある)

- 3) パートの対人サービス業
- 4) ライターでも外に出向く時（取材、打ち合わせ）は利用できない

【子どもにとってどうなの？】

- 1) 保育の質（狭いところに押し込めるだけでは解決しない）
- 2) 2歳半以上は室内だけの見守り保育は限度がある
- 3) 外でのお散歩などの活動が必要。成長に合わせた保育内容が担保できればメリハリのある保育の環境があれば快く働ける

進行) ありがとうございます。お母さんたちからシビアな意見がでて、子どもにとってどうなの？という観点が出てきました。

実際に子どものいる働きの方を採用された事業者の方を勤務者の話を聞きたいと思います。

事業者：狙ったわけでなく、偶然の産物。建築設計事務所にお互い勤めていた。子どもを預ける時間が限られていて、連れてくるしかなかった。自分の事務所スペースで子どもがいる中で働いてもらっていた。8月から保育園にあずけられるようになった。

勤務者) 10年勤務した設計事務所が育休中になくなった。ひろばで偶然、近所で募集があると聞いて、近所の設計事務所での仕事が見つかった。ひろばでの一時預かりを利用したり、認可外保育園の時間であずけたり、土曜には夫がみて働いてきた。

進行) 工夫をしながら子どもがいても仕事ができる環境があった。コワーキングスペースが世田谷にきたらどうだったらいいか、などご意見を皆さんで話してもらいたいです。

20:15-20:40 グループタイム

1) 0か100かで考えた時に、確かにこの考え方はあったほうがいいが、もうちょっといいことないかな？職種が限られている、子どもにはどうなのか？子どもたちが慣れている環境で一時預かりしてたり、児童館などにWI-FIをひいて仕事できる場所があるのいいのではないかな？お母さんたちがみあえるといいのでは。いずれにしても、保育の最低基準がほしい

2) 多種多様な意見がでた。効果が求められた時の評価はどうやって？難しいのでは？中小企業での活用を考えているとしたら、勤怠管理のシステム管理や費用も面倒見てもらえるのか？誰でも使えるなら、たくさんあるなかでの選択肢のひとつとして、働いてる人やそうでない人にも門戸をひらく。効果的な存続として利用はいくらにするのか？食事の提供はどうするのかなどの意見もあり。いいシステムなので、いかにうまくまわしていけるのかが基本的な論点

3) 今までのと同じような意見がでた。外出できないのはネック。ひろばでの一時保育でのコワーキン

グスペース。打ち合わせスペースが充実しているコワーキングスペース。

利用者の層は様々。自由に選択できる一つになればいい。駅近より家近。既存の施設利用、空き家対策でコワーキングスペースや預かりの場を。

- 4) 他と同じような意見がでました。こどもの見守りスペースではハッピーではない。仕事をしない日でも来れるスペースがよい。仕事していても子どもとお昼は一緒に食べられる。多機能おでかけひろばがいい。利用料はどうなのか？会社から補助はあるのか等、高収入でないと使えない。企業、当事者、子どもにとってのメリットがないと使いにくい
- 5) 子どもの育ちが保証できるかを第一に考えられないと。スペースとして見守りスペースとワークスペースが逆の方がいいのではないか。水遊び、砂遊びなどいろいろできず楽しいスペースに仕事できるところが併設されている方がよい。ファミサポの一環として行けるスペース。多様な働き方している人同士が繋がれる場であればよい
- 6) タイトルにあるようにコワーキングスペースが主でおまけで保育。0から5歳まで一緒にみるのはあり得ない。利用支援が思い浮かばない。一時利用でしか考えられない。おでかけひろばのプラスアルファでのワーキングスペースならありかもしれない。保育園のそばにあって、働ける場ならありかも。どこにどういう風に作るか、誰がみるか。企業をリタイアした人や元保育士の採用で社会に出てない人との関わりになる場になるのもおもしろいのかな。
- 7) だいたいと同じですが、論点として多く話されたのが預かりの責任はとれるのか。0, 1, 2の預かりの責任はどうなのか。保育園ほど保育時間が長くないのに落ち着いた子どもの生活が身につくのか。つなが的な存在で質を確保できるのか。制度としては、ベビーシッターと保育園の間で、保育ママのイメージなのか？というところでまだちょっとよく見えないかなと感じました。

進行) 保育の質を大事にする世田谷区らしいご意見がでたのかと思いました。真鍋さんから感想など。

真鍋) ひろばでやります！というのもありという話もでています。制度設計で話してもよかったのですが、前提条件をあまり話さなかったのですが、子ども視点となると保育園、保育士となっていくので、あくまでも選択肢の一つ、期間限定となるがやってみたいと思っています。こういうのもあるよ、というひとつとしてすすめようとしているところです。ご意見をいただきながらすすめていければと思っています

明石) それではこれで終了とします。ありがとうございました。